

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 則松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

則松 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成 2 5 年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成 2 7 年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

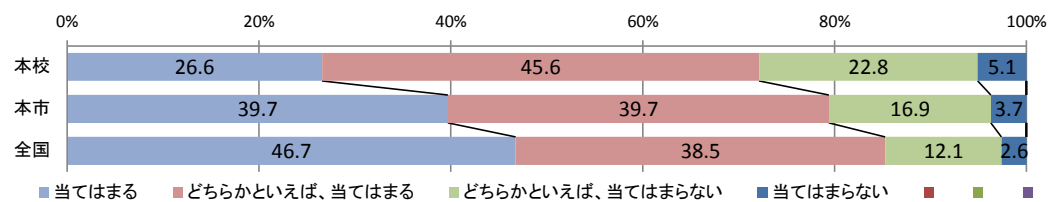
② 学力調査結果の分析

国語 A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。なかでも言語についての知識・理解・技能に関する設問の正答率が低かった。 ・言葉の知識を問う問題に課題があり、普段からの書いたり読んだりすることの習慣化の定着が必要である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	文章を正しく読んだり、文と特徴を正しく捉え説明する問題は正答率が比較的高い。	下回っている
	努力が必要な問題	漢字を正しく書く問題については無回答率が高い。漢字を覚えるための普段からの学習が必要である。	
国語 B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をかなり下回っていた。特に読んだり書いたりする力を試す設問の正答率が低かった。 ・目的に応じて文章の内容を的確に捉えたり、自分の考えを的確な表現で書いたりする問題に課題があり、読み書きの習慣化の定着が必要である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	目的に応じ中心となる言葉や文章を捉える問題の無回答率が比較的低かった。	下回っている
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて尋ねられた内容に的確に答えたり、文の要旨を的確に捉えたりする問題の正答率が低かった。	
算数 A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていた。算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要があった。 ・図形の性質を理解しその特徴を捉える問題の誤答が多かった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	日常生活の中で必要となる時刻の求めたり、グラフに表されている事柄を的確に読み取ったりする問題の正答率が高い。	下回っている
	努力が必要な問題	少数の減法や異分母の分数の計算の誤答が多かった。	
算数 B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていた。応用問題に対しても、苦手意識があり、粘り強く取り組む必要がある。 ・図形の性質知識、理解があまり高くなく、応用力を試す問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	見積りの結果を基に概数を正しく求めたり、切り上げて計算する方法を正しく理解する問題の正答率が比較的高い。	下回っている
	努力が必要な問題	数式の誤りを見いだし、正しい求め方を記述したり、図形の性質を利用してその根拠を記述したりする問題は、正答率が低かった。また、記述問題の無回答率も高かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。基本的な知識が十分でなく、それを活用した問題の正答率が低い。また、記述問題に対して苦手意識があり、あきらめず粘り強く取り組むことができるようになることが課題である。 ・自然事象についての知識・理解が確実に習得、定着せず正答率が低い原因になっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できるかどうかをみる問題は、正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	科学的な概念やデータを基に考察し、判断の根拠について明確にし、理由を説明する問題は、正答率が低く、無回答率も高かった。	

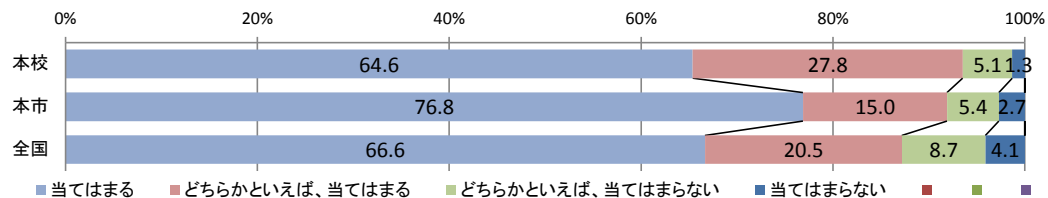
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

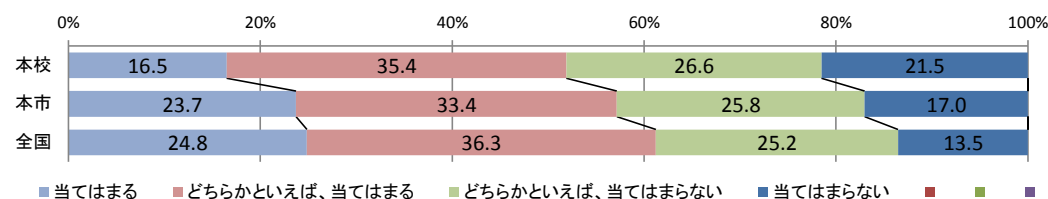
39
授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。



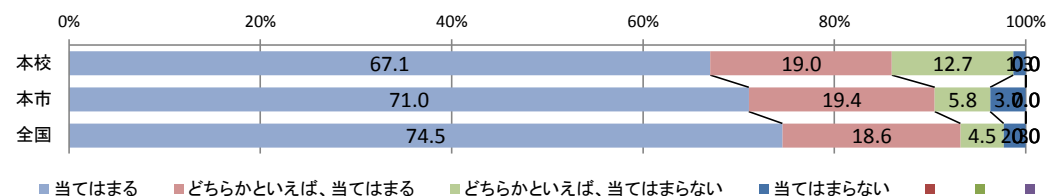
43
授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか。



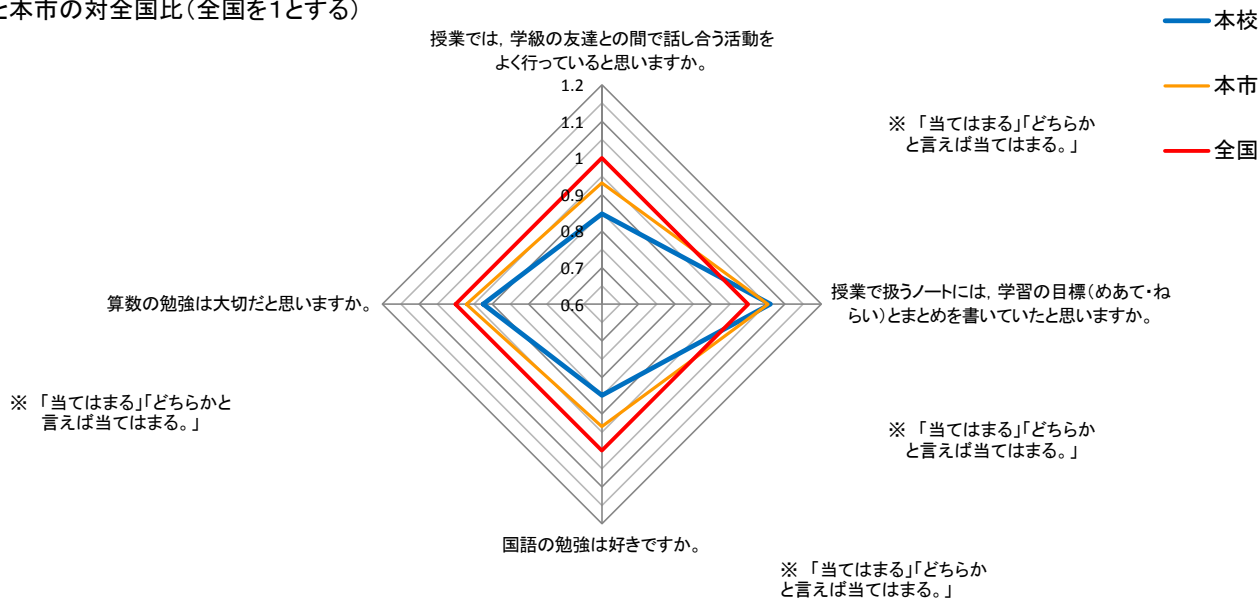
48
国語の勉強は好きですか。



59
算数の勉強は大切だと思いますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・授業における学習のスタンダード化を推進しており、めあてやまとめ、振り返りを毎日の授業に位置づけて実施しており、ノートのまとめにもその成果が表れている。今後は、家庭学習などでも活用できるノートのまとめ方の工夫が必要である。

・普段の授業においてグループやペアでの話し合い活動を取り入れた学習を行い表現力の育成を図っている。しかし、その成果が十分表れていないという結果も伺うことができるので、今後の授業において日常的にグループ学習での話し合い活動の場面を増やしていく。

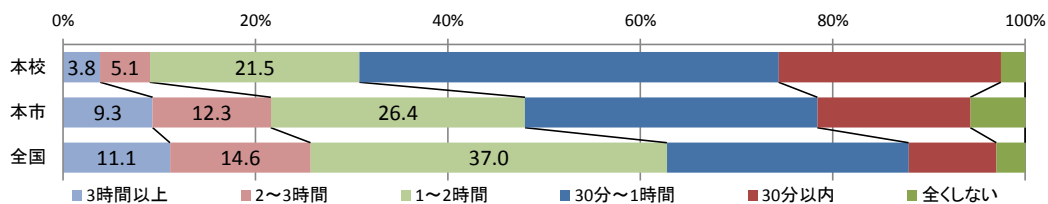
・国語や算数の学習する目的があまり理解されておらず、それが学習への興味や意欲につながっていない。今後は、日常の授業の改善を通して児童が楽しいと思える授業の工夫を実践する必要がある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

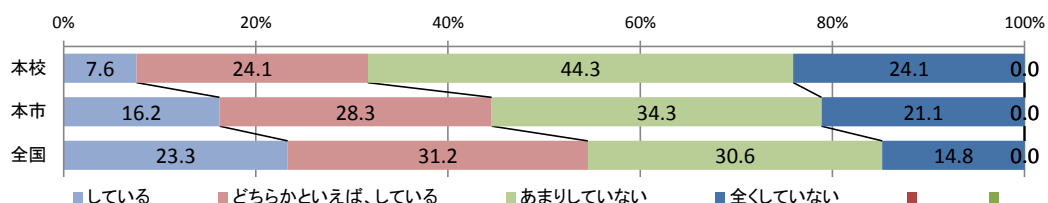
① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

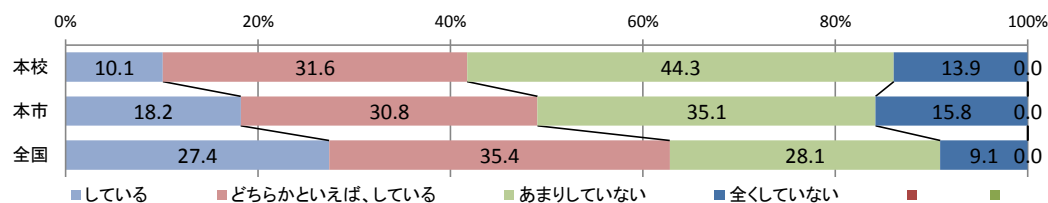
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)



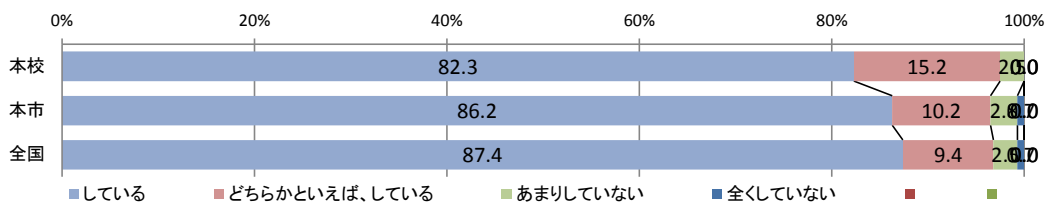
23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

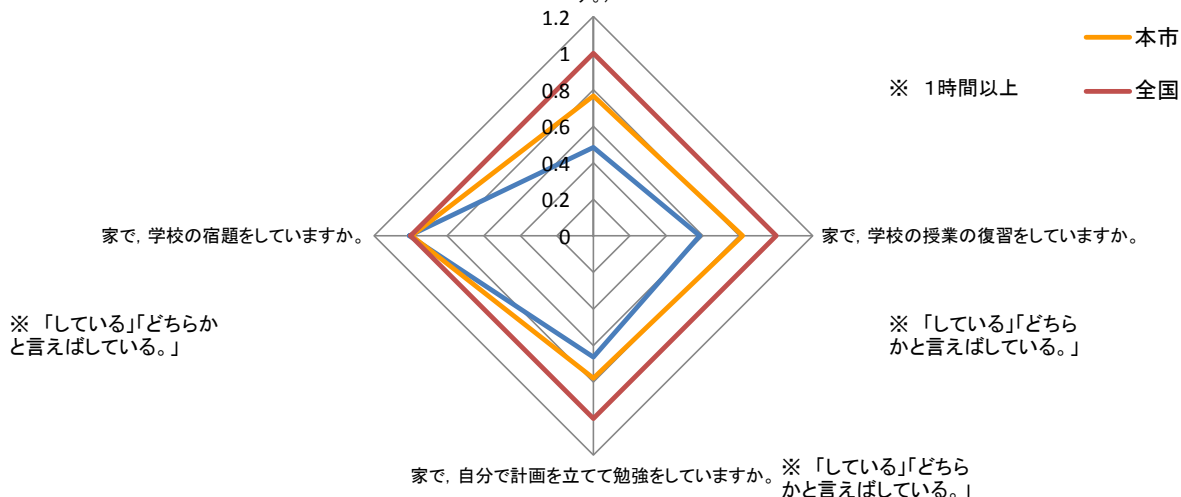


21
家で、学校の宿題をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)



③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

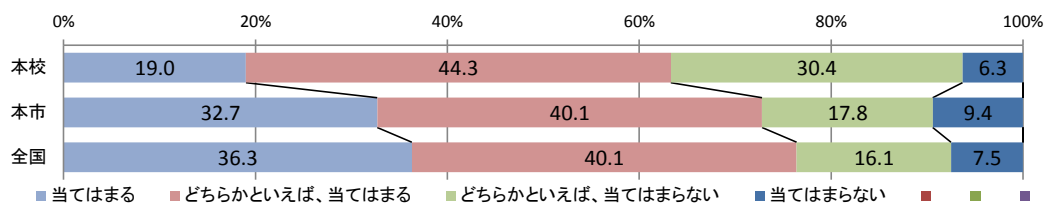
・宿題等の学習課題は進んで取り組んでいる。しかし、自主的、主体的な学習習慣が身についていない。学習時間にも全国と大きな開きがあるので、今後は家庭と協力して家庭での学習時間の確保と日課表等を活用しての学習習慣の育成を図る。

・家庭で予習や復習をする学習習慣がまだ身についていない。今後は、家庭とも連携を取りながら、家庭学習ハンドブック等を活用し具体的な勉強方法を指導し改善を図る必要がある。

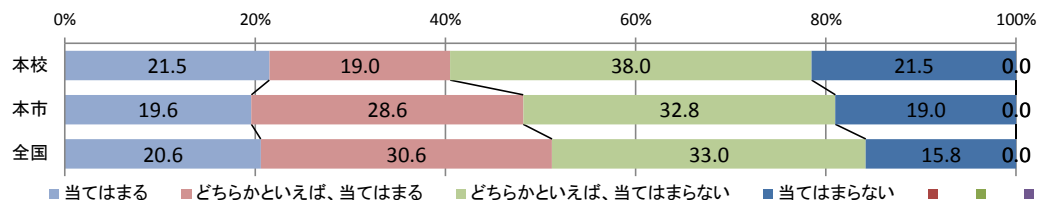
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

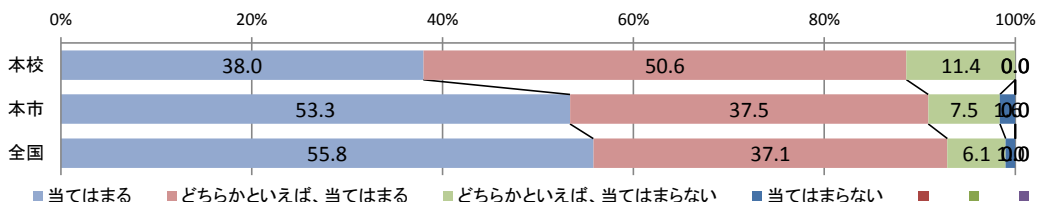
6
自分には、よいところがあると思いますか。



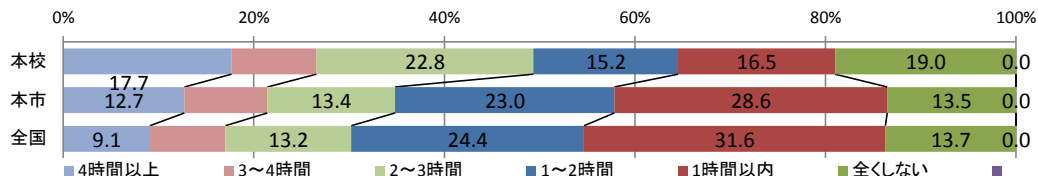
7
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



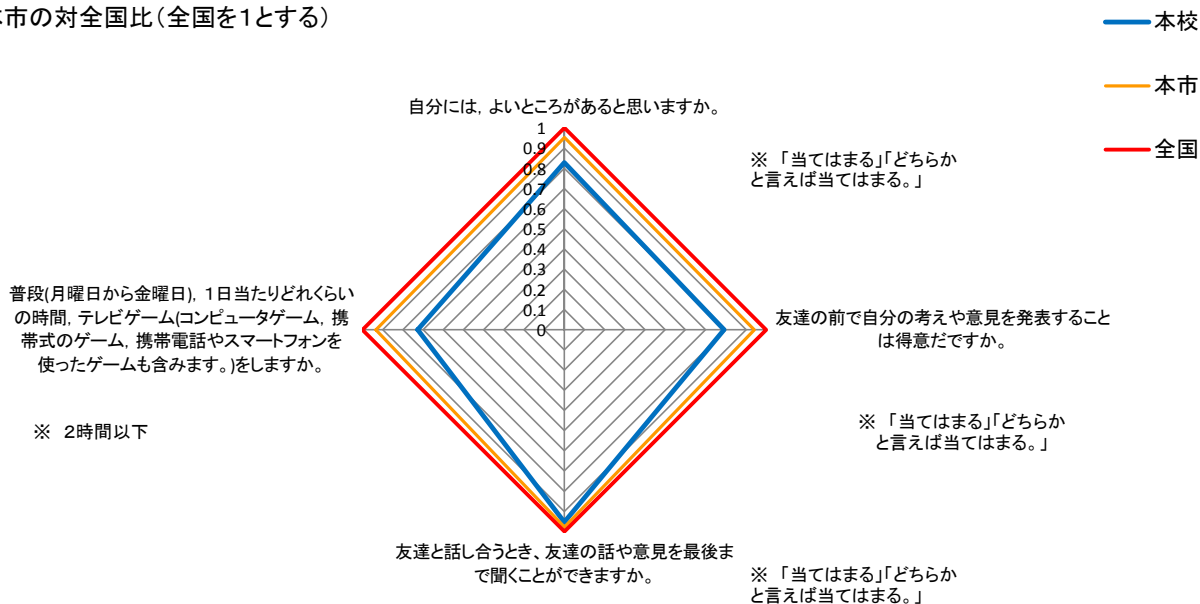
8
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



11
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・友達の話や意見を最後まで聞く態度が育ちつつある。今後も生活や学習の場面において最後まで話を聞く力の育成を進める。自分の考えや意見を発表するのが苦手な児童もいるので、表現する力を育てる意味でも普段の授業や学級会等の特別活動の時間を有効に活用し人前でも積極的には自分の考えを発信できるようにする。
- ・自尊感情が全国平均と開きがある。今後は学習や生活の場面で自分のよさを周囲の人から認められるような声掛けが広がるような学級づくりをしていくとともに、家庭とも連携して自尊感情を育てる取り組みをしていく必要がある。
- ・家庭でのゲームの時間が多く、それが学習時間や睡眠時間を減らす原因になっている児童が見受けられる。規則正しい生活習慣を育成するために家庭とも協力して取り組む必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○児童の実態をもとにした学力向上研修等の共通理解の場の設定

- ・学力テストやCRT検査の分析結果をもとに学力の定着・向上のための課題や具体的方策の検討を行う。
- ・朝の学習の時間等を活用して、基礎的な内容のワークテストを繰り返し行うなどして基礎学力の向上を図る。
- ・学習過程のスタンダード化や学習規律の定着を図る。
- ・職員で学力テストやCRTの問題を解き、その出題傾向を知り指導に生かす。

○特設時間の活用

- ・朝の学習の時間の内容を通して、取り組みとその内容の工夫を行う。
- ・少人数担当教諭や担任外の教諭を生かして、上学年を中心に少人数学習を計画的に実施する。
- ・学級担任や担任外教諭による空き時間を活用しての補充指導を行う。

○過去問やアシストシート等の効果的活用

- ・アシストシート、過去問を朝の学習や冬・春休みの課題として活用する。

○書くこと、読むことの習慣化

- ・ノート指導の徹底を図る。
- ・言語による表現力の向上のための「ひまわり」の音読・視写の学習に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習チャレンジハンドブックや家庭学習の手引き等を活用し、家庭とも連携を図りながら家庭学習の習慣形成と定着を図る。また、学期に一回程度の家庭学習定着強化期間を設け、強化期間中の学習実態把握、及び課題の改善に向けて保護者と連携を図る。また、学年の発達段階に応じた学習時間を確保するために普段の学習課題(宿題等)の推進・定着を図る取組みを行う。

- ・普段の生活の中で長時間ゲームやテレビ等に時間を割いている児童がおり、規則正しい生活習慣形成や家庭学習習慣の定着の妨げにもなっている。毎日の日課について振り返られるための生活点検カードの取り組みや「生活がんばり習慣」等の活用による生活習慣形成を図っていく。

- ・家庭生活の実態を保護者と学校が共有し、課題を明確にするとともに改善のための具体的な手立てや方法を学校や学級担任から発信する。